

# 「Analytical Sciences」 投 稿 規 定

(1984年5月施行  
1989年2月, 1999年2月, 2003年3月, 2006年3月, 2008年12月, 2016年3月一部改訂)

1. 投稿論文は、英文による Original Papers, Reviews, Rapid Communications, Notes, 及び Advancements in Instrumentation とし、他誌に未発表のものないし発表予定のないものに限る。
2. Original Papers とは、分析化学の基礎あるいは応用に関して、価値ある事実あるいは結論をまとめたものをいう。  
Reviews とは、分析化学における重要かつ話題性のある事項について総合的に展望し、解説あるいは報告するものをいう。  
Rapid Communications とは、分析化学の基礎あるいは応用に関して、独創性・新規性が高く、迅速な報告を要するものをいう。  
Notes とは、分析化学の基礎あるいは応用に関して、断片的であるが、新しい事実や価値あるデータを含むものをいう。  
Advancements in Instrumentation とは、装置、技術の開発や改良に基づく新知見を簡潔に報告するものをいう。
3. 投稿論文の言語は英語とし、詳細は別に定める「投稿の手引き」(Instructions to Authors) に従う。これに反する場合は、原則として受け付けない。
4. 投稿論文は、本会「Analytical Sciences」編集委員会あてに WEB 投稿システムにより送付することとし、編集委員会到着の日を受付日とする。
5. 投稿論文の採否は、編集委員会が決定する。編集委員会は、字句その他の加除修正を行い、あるいは著者にこれを要求することがある。
6. 論文の修正などのために、編集委員会から著者に返却された投稿論文は、一ヶ月以内に編集委員会に返却されるものとする。これより遅れた場合は、新規投稿論文として取り扱うことがある。
7. 本誌及び本誌の電子メディアに掲載された論文についての著作権は、公益社団法人日本分析化学会に属する。
8. すべての投稿論文は CrossCheck™ を使い、剽窃や他の論文との類似性をチェックする。類似性が高いと認められた論文は、査読せずに著者に返却する。

## 「Analytical Sciences」 投稿の手引き

(1995年3月, 1999年3月, 2000年3月, 2002年3月, 2003年3月, 2004年3月, 2006年3月, 2007年3月,  
2008年3月, 2009年3月, 2010年3月, 2011年3月, 2012年3月, 2013年3月, 2018年3月, 2020年3月一部改訂)

### 1 はじめに

本投稿の手引きは「Analytical Sciences」投稿規定3.により、論文投稿に際して執筆の指針となるよう作成されたものである。以下の諸注意に従い、読みやすく、体裁の整った論文を投稿すること。この手引きに著しく違反する投稿論文は、受付に先立って修正を求めることがある。なお、投稿の前に必ず「Analytical Sciences」1月号掲載の Ethical Guidelines for Authors を参照すること。

### 2 投稿論文

#### 2.1 投稿論文の提出

投稿論文は、WEB 投稿システムで受け付ける (<http://db.jsac.or.jp/submitmanuscripts>)、電子メールあるいは文書での原稿提出は受け付けない。投稿論文は図・表を含めた単一ファイルとして pdf 形式に変換したものとすること。必要であれば、このほかに Supporting Information for Publication 及び Supporting Information for Review Only を、それぞれ pdf 形式の別ファイルとして提出すること (3・10 参照)。

WEB 投稿システムで投稿手続きを完了すると、自動的に論文を受理したことが電子メールで通知される。その後、公式の受付通知が「Analytical Sciences」編集委員会 (以下、編集委員会と略す) より受付番号とともに電子メールで送付される。論文投稿後 10 日以内に受付通知がない場合は、編集委員会 ([analytsci@jsac.or.jp](mailto:analytsci@jsac.or.jp)) に問い合わせること。

Reviews の投稿に関しては、事前に編集委員会へ問い合わせること。

#### 2.2 投稿論文の形式

投稿論文は、以下に示した(1)~(7)を、この順にそれぞれ改

ページして取りそろえる。(1)論文の表紙(論文題名、著者名、研究の行われた機関・所在地を記す)、(2)概要 (Abstract)、(3)本文、(4)引用文献、(5)表、(6)図の説明文、(7)図、(8)Graphical Index 用の図。

なお、投稿論文作成用テンプレートを本誌 WEB サイトに掲載してあるので、必要であればダウンロードして使用すること。

#### 2.3 投稿論文の長さ

投稿論文の長さは、刷り上がりで Original Papers 6 ページ、Rapid Communications 3 ページ、Notes 3 ページを目安とする。Reviews は 10 ページ以内、Advancements in Instrumentation は 4 ページ以内を厳守する。刷り上がりページ数を見積もる計算ソフトを本誌 WEB サイトからダウンロードして、あらかじめページ数を概算しておくこと。

#### 2.4 投稿論文作成の概略

用紙サイズは A4 とする。下記 a)~f) は一般的注意事項である。

- a) 原稿には通しページを入れる。
- b) パラグラフの始めは 5 字分あける。
- c) 行の終わりの単語を途中で切らない。ただし、化合物名中のハイフンであれば行の右端になってもよい。
- d) ラテン語の文字はイタリック体を用いる (*et al.*, *in situ* など)。
- e) 原稿は十分な余白をとり、ダブルスペースで Times あるいは Times New Roman フォントの 11 ポイントを標準として出力すること。
- f) pdf ファイル作成上問題になることがあるので日本語フォントを使用しないこと。

### 3 投稿論文の書き方

#### 3-1 論文題名

具体的かつ簡潔に内容を表すものとする。方法論の評価にかかわる形容詞又は副詞 (new, precise など) は題名中では使用しない。すべての主要単語の第1文字を大文字とし、末尾にピリオドを付けないこと。題名中には、スペルアウトしなくても読者の大半が理解できる手法・装置の名称 (AAS, ESR, FIA, HPLC, ICP, IR, NMR など) に限り、略号を使用してもよい。また、手法・装置以外でも、スペルアウトすると題名が不必要に長くなるような場合は、例外的に略号の使用を認めることがある。

#### 3-2 著者名

著者名は full spelling とし、姓はすべて大文字とする。middle name がつく場合は、その部分について James D. SMITH のように頭文字とピリオドで表記すること。

#### 3-3 研究の行われた機関・所在地

機関名 (公称訳) 及び海外から郵便物が届くのに必要十分な住所を書く。住所には郵便番号を記す。市名、区名の後に続く -shi, -ku は付けない。また、研究の行われた機関が2箇所以上であっても、まとめて印書し、著者名の右肩及びその対応する研究の行われた機関の前に\*, \*\*…を付して、それぞれ区別する。

#### 3-4 概要 (Abstract)

本文を参照しなくても、論文の目的・方法、重要な結果、結論などが把握できるように、できるだけ客観的、具体的に記述する。Abstract 中では文献の引用をせず、また、題名に用いたもの以外の略号を用いないこと。Abstract の長さは、Reviews 及び Original Papers では150語程度、Rapid Communications, Notes, Advancements in Instrumentation では80語程度とする。見出しは付けない。概要の後に10語以内のキーワード (Keywords) を記す。

#### 3-5 本文

3-5-1 本文は実験結果の羅列ではなく、報告しようとする焦点が明確になるよう、研究目的・実験・結果・考察などを順序よく簡潔に述べる。

3-5-2 文中で略号を用いてもよいが、初出の時点で明確に定義すること。化合物名は、原則として IUPAC の命名法に従う。元素記号及び簡単な無機化合物の化学式は、使えば論文が簡潔になるので、紛らわしくない場合には用いてもよい。

3-5-3 物理量の記号、単位及びその使用上の規約は原則として IUPAC の勧告に従う (「分析化学」投稿の手引き、付記 A2, A3 参照)。

3-5-4 文頭に数字が出てくる文例、例えば “5 ml of…” やあるいは “Five ml of…” のような書き出しは避け、“Five milliliters of…” とすること。

3-5-5 本文中に引用する人名は姓だけとし、敬称は付けない。複数著者の文献を引用するときは、3人以上の場合は Potter *et al.*, などとしてよいが、2人の場合は Porter and Sawyer のように両姓とも記すこと。

3-5-6 ハイフンの扱いについて：複数個の単語の組み合わせで一つの事柄を表す場合 (例えば ion chromatography) や前後の関連において誤解のおそれがないときは、ハイフンは用いないことが望ましい。

3-5-7 本文中に式、図及び表を引用するときは、Eq. (1), Figs. 2-4, Tables 4 and 5 のように書く。ただし、文頭の場合は Equation (1), Figures 2-4, のように略さずに

記す。

3-5-8 謝辞を表すときは Acknowledgement (s) の見出しを付け、空白を1行設けた後に、本文と同様のスタイルとする。

#### 3-6 引用文献 (References)

引用文献及び本文中の注は、すべて引用順に通し番号を該当する場所の右肩に付ける。該当する場所が文章の末尾のときは、…methods.<sup>3,4</sup> のようにピリオドの後に文献番号を記し、文章の途中のときは、…methods,<sup>3,4</sup>… のようにコンマの後に記す。複数の文献を引用するときは、3,4 ないし 5-8 のように扱う。

本文が終了した後、改ページを行い、References の大見出しを印書後、番号、文献、注を付ける。雑誌名の省略は Chemical Abstracts に準拠する。“ACS Style Guide 3rd Ed.” などが参考となる。引用文献の記載例を以下に示す。

#### 雑誌の引用

1. M. Harada, M. Shibata, T. Kitamori, and T. Sawada, *Anal. Sci.*, **1999**, *15*, 647.
  2. G. J. Moody, G. S. Sanghera, and J. D. R. Thomas, *Analyst* [London], **1988**, *113*, 1419.
  3. Y. Yoshikawa, P. S. Dahr, and H. Yamatera, *Chem. Lett.*, **1984**, 841.
  4. H. Nakamura and Z. Tamura, *Bunseki Kagaku*, **1988**, *37*, 35.
  5. T. Buehrer, P. Gehrig, and W. Simon, *Anal. Sci.*, in press.
- #### 単行本・叢書の引用
6. A. J. Bard and L. R. Faulkner, “*Electrochemical Methods: Fundamentals and Applications*”, **1980**, John Wiley and Sons, New York, Chichester, Brisbane, Toronto.
  7. R. S. Houk, H. J. Svec, and V. A. Fassel, “*Dynamic Mass Spectrometry*”, ed. D. Price and J. F. J. Todd, **1981**, Vol. 6, Chap. 19, Heyden, London, 234.
  8. S. Tunogai and S. Noriki, “*Kaiyō Kagaku* (Oceanic Chemistry, in Japanese)”, ed. M. Nishimura, **1983**, Sangyōtoshō, Tokyo, 55.
  9. O. W. Griffith, in “*Methods of Enzymic Analysis*”, ed. H. U. Bergmeyer, 3rd ed., **1985**, VCH, Weinheim, 521.

#### 学会講演などの引用

10. G. Kolbl, M. Krachler, K. Kalcher, and K. J. Irgolic, in *Proceedings of the Fifth International Symposium on Use of Selenium and Tellurium*, ed. S. C. Carapella, J. E. Oldfield, and Y. Palmieri, **1994**, STDA, Grimbergen, Belgium, 291-300.

#### レポートなどの引用

11. T. V. Raglione and R. A. Hartwick, Abstracts of Papers, Pittsburgh Conference and Exposition on Analytical Chemistry and Applied Spectroscopy, New Orleans, LA, **1988**, Abstract 773.
12. JIS K 0119, “General Rules for X-ray Fluorescence Spectrometric Analysis”, **1987**, Japanese Industrial Standards Committee, Tokyo.

#### 特許の引用

13. G. E. Erlemann and H. Ippen, Swiss Patent Application, **1968**, 18964.
14. H. F. Lockwood, U. S. Patent **1965**, 3759835; [Chem. Abstr., **1970**, *73*, 46241q].
15. E. L. Dorr, U. S. Patent, **1960**, 2921952; [Angew. Chem., **1967**, *79*, 520].

#### WEBの引用

16. Database of Natural Matrix Reference Materials, Compila-

tion prepared by International Atomic Energy Agency (IAEA), <http://www.iaea.org/programmes/nahunet/e4/nmrm/browse.htm/>.

私信の引用はなるべく避ける。引用する場合は、次のように記す。

17. Private communication, S. Fujiwara (Kanagawa University), Dec. 20, 1988.

### 3.7 図と表

3.7.1 図と表は不必要に作成しない。また、同じ内容のものを図と表の両方で表すことはやめ、いずれか一方にする。

3.7.2 構造式を示したものや簡単なイラスト図なども、すべて図として扱う。

3.7.3 図は、著者の原稿をそのまま複写、縮尺して製版する。製版用の原図として不都合な場合は、書き改めを要求することがある。

3.7.4 カラー写真の掲載には実費を請求する。

3.7.5 図の説明は、別紙に Figure Caption(s) の大見出しを付けて記述する。図及び表の題名には原則として元素記号及び化学式は使用しない。

3.7.6 図の縦軸、横軸の目盛りの説明は、物理量/単位 (例えば Concentration/mol l<sup>-1</sup>) の表現で書くこと。

### 3.8 Graphical Index

Graphical Index (GI) 用のカラー図版を1枚提出する。オリジナルの図版であること。GI用のカラー図版のサイズは、縦5 cm、横8 cmに合わせる。掲載許可後、印刷用最終原稿提出の際に、GIのオリジナル図版も提出する。ファイル形式はJPEG、PNGまたはTIFFファイル(300 dpi)とする。作成にあたり、本誌のWEBサイトを参照すること。

### 3.9 Rapid Communications

この手引きの他の項目に加えて、Rapid Communicationsの投稿にあたっての注意事項を記す。

a) 早急な公刊を希望する理由書(形式任意)を投稿論文に添付すること。

b) 大見出しをつけずに本文を作成すること。

### 3.10 Supporting Information

大きな図・表や高解像度のカラー写真、結晶データなどの補足情報を Supporting Information (SI) として WEB 上で公開することができる。SIは冊子体としては印刷されないが、読者がWEBからアクセスできる。著者は、論文を最初に投稿する際、投稿論文のファイルとは別に、SI for Publicationを単

一のpdfファイルとして提出しなければならない。ファイルサイズは1論文あたり最大5 MBとする。本文中には、Referencesの前に以下のような文章を入れる。

Supporting Information: (内容を簡潔に記載する)。This material is available free of charge on the Web at <http://www.jsac.or.jp/analsci/>.

SI中の図・表、数式などは、Fig. S1, Table S2, Eq. (S3)のように記し、本文中で引用する際は“Fig. S1 (Supporting Information)”や“Tables S2-S4 (Supporting Information)”のように記載すること。

投稿論文の内容に関連する資料で、審査の際に必要となるもの、例えば印刷中ないし投稿中の関連論文などがあれば、SI for Review Onlyとして提出すること。SI for Review Onlyもpdfファイル形式で作成し、その数は最大3ファイルまで、また合計で15 MBまでとすること。

## 4 掲載許可された場合

投稿論文の掲載が許可された後は、著者が希望する場合、印刷体の発行を待たずに当該原稿のpdfファイルを“Advance Online Publication”としてWEBサイト上で公開する(“Advance Online Publication”の詳細については、Instructions to Authorsを参照のこと)。その後の編集委員会からの連絡に従って印刷用最終原稿を作成し、電子ファイルとともに提出すること。また、同時にGraphical Index用のカラー図版を作成、提出する。図版のサイズは、縦5 cm、横8 cm、ファイル形式はJPEG、PNGまたはTIFFファイル(300 dpi)とする。

## 5 著者校正

著者校正は1回行う。校正では、印刷上の誤り以外の修正はできない。投稿者には校正刷りのみを送ることとし、受け取り後2日以内にCopyright Transfer及び別刷申込書とともに編集委員会宛に返送すること。返送が遅れた場合は、編集委員会の校正のみで校了とする。

## 6 別刷

投稿料は無料であるが、別刷は有料とする。

## 7 雑誌発行後の正誤訂正

雑誌発行後6か月以内に著者から訂正の申し出があった場合は、次のように取り扱う。

a) 印刷上の誤りについては、これを掲載する。

b) 印刷上の誤り以外の訂正、追加などは、編集委員会が適当と認めた場合に限り掲載する。